

基礎演習 2

責任者・コーディネーター	臨床医化学分野 那谷 耕司 教授		
担当講座・学科(分野)	創薬有機化学分野、臨床医化学分野、情報薬科学分野、臨床薬剤学分野、薬物代謝動態学分野、生体防御学分野、構造生物薬学分野、天然物化学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 16.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

3 学年前期では、2 学年で履修した科目や 3 学年後期科目と連携する科目が多い。本講義では、特に、2 学年後期科目で履修した科目の要点整理を行い、関連科目の実践的な知識基盤の強化を図る。

・教育成果（アウトカム）

物理、化学、生物、薬理学、創剤学、薬物動態学および衛生化学の学修を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することで、基本的知識の確固たる基盤を形成することができる。また、そうして得た知識基盤を 3 学年前期配当科目の理解に生かすことで、科目間連携を意識できるようになるとともに、関連科目の内容も理解し、説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー：2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBO）

基礎薬学分野 : 物理、化学、生物系の薬学専門関連科目の SBOs
 医療薬学分野 : 薬理学および薬物動態系の薬学専門科目の SBOs
 衛生薬学分野 : 衛生系の薬学専門科目の SBOs

・講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/3	水	4	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	イントロダクション 【ICT (Google Forms、moodle)】 事前学修：2 年後期に履修した科目について再確認しておくこと。 事後学修：配布プリントの内容を再確認すること。
4/17	水	4	創薬有機化学分野	辻原 哲也 准教授	2 年後期に開講された「有機薬化学 2」の範囲についての復習と問題演習 1. 「有機薬化学 2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、moodle)】

					<p>事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>
4/24	水	4	生体防御学分野	錦織 健児 助教	<p>2年後期に開講された「免疫生物学1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「免疫生物学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>
5/1	水	4	情報薬科学分野	佐京 智子 助教	<p>2年後期に開講された「生化学3」の範囲についての復習と問題演習 1. 「生化学3」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>
5/22	水	4	情報薬科学分野	氏家 悠貴 助教	<p>2年後期に開講された「化学療法学1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「化学療法学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>
5/29	水	4	薬物代謝動態学分野	幅野 涉 教授	<p>2年後期に開講された「薬物動態学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「薬物動態学」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。</p>

					事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。
6/3	月	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 教授	<p>2年後期に開講された「物理化学2」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「物理化学2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Google Forms、moodle)】</p> <p>事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>
6/10	月	4	臨床薬剤学分野	朝賀 純一 准教授	<p>2年後期に開講された「薬理学2」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「薬理学2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Google Forms、moodle)】</p> <p>事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>
6/17	月	4	臨床薬剤学分野	朝賀 純一 准教授	<p>2年後期に開講された「薬理学2」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「薬理学2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Google Forms、moodle)】</p> <p>事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>
6/21	金	4	情報薬科学分野	佐京 智子 助教	<p>2年後期に開講された「環境衛生学」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「環境衛生学」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Google Forms、moodle)】</p> <p>事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>

6/26	水	4	天然物化学分野	浅野 孝 助教	<p>2年後期に開講された「食品衛生学」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「食品衛生学」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Google Forms、moodle)】</p> <p>事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修しておくこと。</p>
------	---	---	---------	---------	---

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	2年後期に使用した教科書			

・成績評価方法

<p>各講義で実施される確認テスト（85%）とレポート（15%）で評価する。</p> <p>なお、各講義で実施される確認テストの総合平均が70点（100点満点換算）を超えた者にのみレポートの点数を加算して評価する。定期試験は実施しないが、再試験は再試験期間中に実施する。</p>

・特記事項・その他

<p>授業に対する予習には最低30分、復習には1時間程度を要する。さらに、定期試験前には7時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。詳細な予習・復習の方法を初回講義時に説明する。講義後にフィードバックとしてmoodleに概況等を掲載する。</p>
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	iPad Air (Apple ME906J/A)	1	講義資料の閲覧